

発行所
株式会社 中外日報社
©中外日報社2014

京都総本社 〒601-8004 京都府南区東九条東山王町9
電話 (075)671-3211(代)
FAX (075)671-2140

東京本社 〒113-0033 東京都文京区本郷4-9-13
電話 (03)3816-4721(代)
FAX (03)3811-5222

http://www.chugainippoh.co.jp
Eメールhenshu@chugainippoh.co.jp



購読料
一月 一、九〇〇円
三月 五、三〇〇円
半年 九、八〇〇円
一年 一八、〇〇〇円

京仏壇・京仏具
若林

本社 東京店 築地店 仙台店 札幌店 近江草津店 福岡営業所
各店共通 フリーダイヤル
0120-37-8585

遺骨を寺に郵便で送る



全国から送られてくる遺骨が納められる見性院の永代供養塔

やむを得ず遺族決断

時事
展
描

曹洞宗見性院(埼玉県熊谷市)の永代供養塔には、全国から毎月3〜5柱の遺骨が郵送されてくる。6年前に行き場のな

墓の予算ない、後継者いない…

近年、遺骨を郵便で寺院に送り、合同供養墓などに納める「送骨」が急速に広がっている。背景には首都圏などで墓が高額で購入できないことや、過疎化で地方にある墓が維持できないなど、さまざまな事情がある。無縁社会といわれて久しい今日、遺骨の郵送は「人心荒廃の最たるもの」と非難する意見もあるが、現場にはやむを得ず遺骨を送る遺族と、その思いに応える宗教者らの姿がある。

広がる「送骨」 現代社会を映す!?



遺骨の入った骨つぼは専用の段ボール箱に納められて送られてくる(見性院で)

多くの問い合わせがあり、近郊であれば事務員

(赤坂史人)

「永代の供養をするのだから、法事は最初だけで、後はないだろう」と思っていた」と振り返る。だが一周忌、三回忌をす

「永代の供養をするのだから、法事は最初だけで、後はないだろう」と思っていた」と振り返る。だが一周忌、三回忌をす

「永代の供養をするのだから、法事は最初だけで、後はないだろう」と思っていた」と振り返る。だが一周忌、三回忌をす

る遺族もいる。例えば、母親の遺骨を永代供養塔に祀り、十七回忌を行った30代の夫婦は「ちゃんとお墓を作っておあげたかったけれど、できなかった。せめて法事だけはしっかりさせてほしい」と語った。

- きょうこの紙面から
- ▶ <連載・断面> 曹洞宗 改革に向けた青写真を = 3面
 - ▶ 南インドに曹源禅寺建立 = 5面
 - ▶ <読者のページ> 相談コーナー: お寺、単身高齢者の心の拠り所に… = 8面
 - ▶ 臨済宗佛通寺派・小倉管長晋山特集 = 12面
 - ▶ グラフ特集「社寺と耐震のこれからを考える」 = 13~20面
- ◆<文化>は休みました

中外日報購読のお申し込みは、フリーダイヤル0120-015-177へ

悲痛な思いに応える

「遺骨を救う会」通じ寺の合祀墓へ

各地にもさまざまなケースがある。神奈川県座間市の女性(44)は、1996年2月に夫を亡くした。葬儀は県内の寺院で行ったが、その寺の墓地には空きがなかった。墓地を探すが、一時的に預かる施設が都内3カ所あり、その一つが多摩霊園に預けていた。だが、預かり期間の5年が経過した。女性は「主人の入院費が高額だったし、それに娘がいないので墓

を後に残すのも不安だった。なかなか良いお墓が見つからないうちに、お墓にこだわらなくてもいいか」と悩んでいた。お墓の内を明かした。そこでネットで知ったNPO法人「終の棲家なき遺骨を救う会」(事務所・東京都世田谷区)を通じて今年5月、新宿にある寺に遺骨を郵送した。事前に合祀墓を見学した女性は「ここなら安心できると思った。よっ

仏壇・仏具・寺院荘厳仏具・墓石・贈答品

やすらぎの世界を創る

浜屋

■ 本社・寺院営業部 / 姫路市南町2丁目31番地 電話 (079)286-2211代

浜屋は京阪神に隣接し、38店舗の安心チェーン網

浜屋へのお電話は 通話料無料の 0120-1616-94 受付時間/ 午前9時~午後9時30分

「遺骨を郵送するのは、不謹慎だと思われるかもしれないが、そうではない。問い合わせの多くは「遺骨を郵送するのは、不謹慎だと思われかもしれないが、そうではない。問い合わせの多くは」

「遺骨を郵送するのは、不謹慎だと思われかもしれないが、そうではない。問い合わせの多くは」

「遺骨を郵送するのは、不謹慎だと思われかもしれないが、そうではない。問い合わせの多くは」